

令和5年度（2023年度）第2回吹田市立青少年クリエイティブセンター運営審議会議事録

1 日 時 令和6年（2024年）2月14日（水）午後6時30分から午後7時30分

2 場 所 青少年クリエイティブセンター 視聴覚室

3 出席者

(1)委員 狩俣 正雄（委員長）、上坂 純郎（副委員長）、酒井 睦美、清水 厚彦、
大原 猛、西川 緑一、田村 尚俊、森 ゆみ、前田 都、大川 賢司、光田 修平

(2)事務局 大川（青少年室長）、
池原（青少年クリエイティブセンター館長）、曾我（同参事）、松本（同主幹）、
西田（同主査）、井崎（同主査）、大黒（同主任）

4 傍聴者 なし

5 開 会

青少年室長挨拶

6 議 題

(1)令和5年度（2023年度）利用状況報告

(2)令和6年度（2024年度）事業予定報告

(3)青少年クリエイティブセンターニーズ調査の結果について

(4)議会関連報告

(5)その他

7 審議の概要

○ 配付資料により事務局から説明を行った。委員から出された意見・質問の概要は以下のとおり。

委 員 事業の評価について、単位の違いやわかりにくい表記があるが、正確な分析を行えているか。

事務局 今後は組数や人数等の単位を揃える等、事業間での比較がしやすいような分析を行う。また、わかりにくい表記は避ける。

委 員 電子申込について、通知のメールが届かない可能性はないか。

事務局 申込みの際に指定してもらったメールアドレスに自動で送信されることになる。ただし、本人のセキュリティ設定によっては、迷惑メールに分類される等で届かない可能性があるため、問合せがあった際は丁寧に対応する。

委 員 申込結果について問合せがあった場合に担当者以外でも対応できるのか。

事務局 担当者以外でも対応できるよう、密に情報共有を行う。

委 員 多くの事業を実施しているため、職員間で負担の偏りがないように取組を進めて欲しい。

事務局 職員間で負担の偏りが生じないように、連携して事業を実施していく。

委 員 乳幼児や未就学児に対する事業のニーズが高まっていると考えるが何か取組を検討しているか。

事務局 「(仮称) こども計画」の中で乳幼児等に対するニーズを確認しながら、児童部局や母子保健に係る保健部局とも連携しながら支援を充実させていく。

委員 不登校児や障がいのある子供の居場所づくりについてはどうか。

事務局 専門的な対応の必要性も含め、青少年室や学校教育部局と連携しながら支援していく。

委員 「青少年」や「若者」等の言葉において、年齢等の定義や考え方の違いはあるか。

事務局 年齢等の定義が決まっているものではなく、法や計画の中でも都度判断が求められる。今後、青少年行政を進めていく中で、整理が必要になる可能性はあると考えている。

委員 自習室の提供に力を入れるとのことだが学習環境の整備を検討して欲しい。また、体育館や運動広場についても器具の更新や見直しや駐車場の取扱い、管理棟の建替え等も整理して欲しい。

事務局 自習室については個別ブースの導入、体育館や運動広場における器具の購入等について財政部局と調整を行っており、引続き協議を進める。また、駐車場の取扱いや建替え等については、来年度以降、整理を進める。

委員 市内小中学校の体育館に空調設備が導入されたと聞いているが、クリエイティブセンターも足並みを揃えて導入できないか。

事務局 体育館への空調設備導入についても財政部局と調整を行っており、大規模修繕との兼ね合いも含め、来年度以降も引続き協議を進める。

委員 教室事業について空きがあれば参加できるのか。

事務局 講師との調整を行い、受入人数に空きがあれば参加できる。希望があれば問合せいただきたい。

委員 議会の市長答弁の中で運動広場について、子供にとって魅力的な場所を目指す旨の発言があったが、現状はそうっていない。予算が必要なことは承知しているが、人気のある施設であるからこそ、更なる魅力向上のために予算計上が必要であるといった論理構成が出来るように、出来ることからやっていって欲しい。

事務局 財政部局と協議を行いながら、今出来ることから着手していく。

委員 市長答弁と「(仮称) こども計画」の関係、リニューアルのスケジュール感はどのようなものか。

事務局 市長答弁はクリエイティブセンターのリニューアルも含め、地域全体の在り方を全庁的に検討していくものであり、「(仮称) こども計画」は子供や若者に係る課題への取組を全庁的に広く検討していくものである。いずれにしても個々の施設における老朽化等の課題整理や計画は別に必要であると考えている。「(仮称) こども計画」の策定は令和7年4月を予定している。